

第 34 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 3 年 5 月 24 日（月）午後 1 時 30 分から午後 3 時 10 分まで	
開催場所	奈良市役所 B1 会議室	
議題	1 開会 2 会長挨拶 3 報告 (1) 奈良市文化振興補助金について (2) 新型コロナウイルス感染症の文化事業への影響について (3) 奈良市文化芸術活動臨時支援事業補助金について 4 議事 (1) 第 2 次奈良市文化振興計画について ・第 5 次奈良市総合計画指標について ・第 2 次奈良市文化振興計画（骨子案）の修正について 5 その他	
出席者	委員	中川会長、（*以下委員オンライン出席）萩原副会長、上田委員、小野委員、倉橋委員、関根委員、春田委員、松下委員、山下恭委員、山下里委員 【計 10 人出席】
	事務局	中川市民部部長、中川市民部次長、森文化振興課長、小谷課長補佐、吉川主査、荒益係長、山本係長、一柳、吉川、桑理（以上文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	●今回の会議録の署名は、中川会長と萩原副会長が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

- 1 開会
- 2 会長挨拶、署名委員の確認（中川会長、萩原副会長）
- 3 報告

以下 3 件について、事務局から報告を行った。

（1）奈良市文化振興補助金について

 - ・令和 3 年度交付の「奈良市文化振興補助金」は、当委員会内に「補助金交付審査部会」を設置、昨年 11 月 17 日、12 月 15 日の 2 日間において審査を実施。
 - ・「市民文化活動支援事業」（上限 50 万円設定）総額 473 万 6 千円、応募 13 件内新規 2 件。
「都市文化推進支援事業 広域参加型」（上限 300 万円設定）総額 1,151 万 4 千円、応募 6 件内新規 1 件。
「都市文化推進支援事業 国際発信型」（上限 1,000 万円設定）応募なし。
 - ・審査の結果「市民文化活動支援事業」交付予定額総額 252 万 7 千円、13 件すべて交付候補事業と決定。
「都市文化推進支援事業 広域参加型」総額 617 万 3 千円、交付候補事業 4 件、補欠事業 2 件と決定。
詳細は資料「奈良市文化振興補助金 令和 3 年度事業 審査結果」のとおり。

- ・新型コロナの影響で、令和2年度補助事業では19件中10件が中止に伴う補助金辞退。令和3年度補助事業でもすでに1件辞退の申し出あり。令和4年度補助金交付については、決まり次第報告する。

(2) 新型コロナウイルス感染症の文化事業への影響について

- ・令和2年4月大阪府等に緊急事態宣言が出たことをきっかけに文化施設は休館。その後6月1日から開館したが、文化庁からの通知等に基づき入場者数の制限などの感染対策を実施しながら対応。
- ・10月には奈良市文化芸術臨時支援事業補助金として市内で文化芸術事業を主催する個人・団体に対して臨時的な補助金を公募し交付した。
- ・12月8日奈良市ガイドラインでステージ3となり感染対策強化。令和3年3月2日ステージ2になったが4月2日に再びステージ3に。再度の対策強化。4月28日市独自の「奈良市GW特別警戒警報」の発出に伴い文化施設を5月11日まで原則臨時休館、その後延長となり5月31日まで原則臨時休館。
- ・昨年の休館と違い、既に入っている使用予約については再検討をお願いし、中止・延期が難しいものは感染対策をとった上で実施する「原則臨時休館」としている。
- ・施設利用者数は令和元年度603,866人が、令和2年度205,746人。事業参加者数は令和元年度177,003人が、令和2年度64,526人。使用料等の収入は令和元年度93,630,000円、令和2年度50,642,000円(いずれも速報値)。
- ・他コロナ対策は、なら100年会館は昨年度にギガネットインフラ整備としてホールでのイベントをオンライン配信ができるようLAN環境を整備。ならまちセンターも令和3年度予算にて整備予定。さらに文化施設では動画配信の取組みを進めている。

(3) 奈良市文化芸術活動臨時支援事業補助金について

- ・文化芸術関係者への支援について、奈良市独自に「奈良市文化芸術臨時支援事業補助金」を令和3年9月の市議会で20,000,000円を予算化。コロナ禍において中止、縮小を余儀無くされた文化芸術活動の再開継続のための補助事業として実施(資料3)。
- ・募集は10月6日から11月5日。対象はこれまで奈良市での文化事業実績のある、法人、個人事業者、文化芸術団体。原則としてプロの出演や参加が条件。2,000,000円以内であれば全額補助。
- ・応募数37件、有識者による審査の結果16件、19,992,000円を交付(資料3-2)。
- ・効果についてアンケートにて確認。57%の事業が本補助金の募集をうけて開催を決定、93%がオンライン等、会場に足を運ばなくても文化芸術に触れることが出来る工夫があり、一定の成果をみた。

(委員より質疑・意見)

- ・臨時支援補助金、不交付21件の理由を知りたい。
- ・臨時支援補助金、全ての事業が実施されたのか。コロナ対策も含めての内容だったが、ホールを借りて実施する内容もあったので辞退・縮小もあったのか。

(事務局より)

- ・採択に関しては有識者4人による採点形式で実施。内容はオンライン等のコロナ禍での対応が出来るか、影響を受けているプロの芸術活動への支援に繋がっているか、奈良の文化資源や人材の活用などの奈良らしさ、等を審査。予算に限りがあり一定の点数以下の方々は支援出来なかった。
- ・全て実施しているが、一件だけ無観客開催となった。他は予定通りの開催を実績報告で確認している。

4 議事

(1) 第2次奈良市文化振興計画について

(事務局より説明)

- ・総合計画は令和3年4月計画開始予定が令和4年4月に延長され、奈良市文化振興計画についても1年間延長としている。総合計画はパブリックコメントまで終了していたが、新型コロナの影響を反映し、特に指標、数値目標について、改めて算出方法も含めて再検討をしている。
- ・第2次奈良市文化振興計画のスケジュールは、7月から10月に骨子案、11月から12月に市民よりパブリックコメント、それを反映した最終版案を2月から3月にかけて本委員会で確認いただく流れと考えている。

第5次奈良市総合計画指標について（資料4）

（事務局より説明）

- ・本委員会の議論などをもとに、市民文化と都市文化の両方の振興を盛り込み、それぞれの現状と課題、施策の方向性を記載。新型コロナ感染流行の影響を受けた文章を追加している。
- ・指標について、文化施設の利用者数を平成30年度669,125人を基準として、5年後の2025年令和7年度に740,400人に上げていくと設定。指標については総合計画全体の方針も含めて、取りまとめの所管課や総合計画の委員会にて検討中だが、当課からも文化分野での考え方を積極的に意見していきたいと思っている。なお、利用者数はコロナが年度末に流行り出した令和元年度は603,866人、令和2年度は205,746人。今年度も5月が休館予定であるためかなり少なくなると予想している。
- ・コロナ禍において文化芸術への接し方は多様化しており、その中で施設の利用者数、来場者数を指標にすることへの疑問もあるが、基礎的な数字として、これまで記録してきた数字でもあるので、経年で追っていければと思っている。
- ・指標の設定で難しいと感じているのは、コロナ禍の2年間の数字を基準にしてよいのか、その前の数字を基準にするべきか、更に5年後にどのような社会状況を前提とするのかというところ。

（委員より質疑・意見）

- ・これから先、どうなるのか判らないということと、5年後には（コロナ禍対策から）戻っているだろうから当初の指標でよいのではないかという両方の考え方がある。実質利用者数の中には、来場して文化芸術に触れる人と、オンラインなどを利用する人の2種類が現れるだろうとの予感はある。
- ・オンライン利用者も施設利用者にカウントするのか。統計の取り方はどうするのか。

（事務局より）

- ・今の数字でいうとオンラインは指標の中に入っていない。ただ、例えば文化施設の事業参加者数などは、実際の来場者数とオンライン鑑賞数を二つの軸で計っていくことは出来ると思う。総合計画とは別に文化振興計画の方で数を追っていくのも一つの方法。文化事業において、実際の来場者とオンライン鑑賞者を一緒に扱うのは難しい部分もあるのではないかと考える。

（委員より質疑・意見）

- ・非常に難しい部分はあるが、総合計画には市民文化と都市文化を謳っているもので、その両方を見る指標として利用者数を挙げている。そうすると当然利用者数には市内と市外からの利用者の両方を含んでいる。市外からの利用は、今多くの美術館でやっているオンラインのバーチャル鑑賞や、社会教育施設などで盛んになったオンライン講座などの利用が進んでいるので、都市文化と市民文化の両方をこの指標で計っていくのであれば、ホームページの利用者や、コンテンツを見た人をカウント出来る仕組みをまず整えて、その利用者を含んでどうするかと、方針を考え直した方がいいかもしれない。今後マインドが変わるだろうし、高齢化も進むので、リアルな来場者だけを前提とすると、元通りに戻るかは不安がある。例えばオンラインでコンテンツを楽しむ人たちを含む形でより拡大するというのであれば、も

っと積極的な数字を打ち出してもいいのかもしれない。市や施設のホームページの閲覧数だけでも分かれば、どのくらいの人が観に来ているかが分かるので、そこから新しい利用者の掘り起こしも出来る。コロナ禍を逆に利用してチャンスに捉え、利用者の枠を広げると考えてもいいと思う。

- ・ホームページの利用等をカウントするかは、例えば事業ごとにオンラインで参加してワークショップなどがあるときにカウントするのは分かるが、そもそもホームページが本当に見たいものになっているかが問題。工夫したものになければ、(施設を) 借りる人以外はホームページを検索しないだろう。
- ・総合計画の所で、参考指標のような形で入れられる余地はあるのか。

(事務局より)

- ・補助指標のようなものが入られるかどうかは相談する。

(委員より質疑・意見)

- ・市民文化政策と都市文化政策を一本に扱っている関係上、文化施設の利用者数を選ぶのは、やはり経済的合理性指標になってしまう。いわゆる政治的合理指標でもある福祉の指標を考えると、文化施設のカテゴリー、母数を明確にする必要がある。利用者数を増やすという目的から考えると、人気のあるものをぶつけていけばいくらでも来るとの墮落を非常に心配する。二段構えで、アウトプット、利用者総数を競う事には賛成はするが、その総数を追求するあまりに人数重視なやり方に転落することがないように、歯止めをかける必要はあるのではないかと考えている。

例えば市民文化政策でいうと、小学校のアウトリーチ事業をやりますと100年会館が言えば、小学校の全クラス数、全児童数が分母になり、アウトリーチ事業を経験した子どもが分子となって明確な数字が出る。ただ単に文化施設というぼんやりした範囲で、そこに沢山お客さんが来て欲しいとなったらそれは経済政策になる。そこで本来あるべき福祉政策、教育政策としての芸術文化供給事業が墮落する危険性にどうすれば歯止めをかけられるかという議論はしておいた方がいい。

- ・文言としての取り扱われ方が、演じている者からそれを観る人というような意味合いのベクトルが強いと全体的に感じた。それも含めて、経済的な数に加えて市民文化というものを表せるような数値を見つけていきたいと強く思う。経年で見ていくことも大事で、ここに書かれている施設の利用者数も計りつつ、プラスして見つけていける指標を話し合っていきたい。
- ・次の第2次文化振興計画の評価指標の在り方の議論に及んで来るので、そこでももう一度議論をして欲しい。その上でこれを指標として使わざるを得ないとするならば、参考指標、補助指標を2つ、3つくらい入れるということではどうか。
- ・先ほどの母数というのは気になるところで、恐らく5年後にはかなり奈良市の人口や年齢構造が変わるのではないかと。何人中66万なのか、5年後に母数とする人口の何人中何人なのか、パーセンテージの提示もあったらいい。
- ・たとえ上位計画でも向こうがこちらに命令する立場ではない。この分野に関する計画の策定にはこちらの了解を取ってもらいたい。多くの自治体の総合計画においても、分野によって審議会や専門委員の意見をもらった上で全体の総合計画の計画レベルに上げていくのが普通。どちらかというと総合計画では文化やスポーツは軽く扱われる傾向がある。それはほとんどないこと。今みたいに若者が貧困化し、子どもが生活保護に転落していく時代においては、市民文化政策というのは子ども達の将来の生死に係わる事柄であると思う。

第2次奈良市文化振興計画(骨子案)の修正について(資料5)

(事務局より説明)

- ・昨年7月の前回会議において、各委員より頂戴した意見を骨子案に反映させた。修正点を説明する。
- ・目次のところ、そもそも奈良市文化振興計画は奈良市文化振興条例において18の項目について「基本方針」というものを定める規定があり、その基本方針を定めたものが「文化振興計画」となる。こちらの基本方針は各項目の方針を理念的に定めたものになり、第2次計画でも踏襲できるものと考えている。基本理念と基本方針は第2章。こちらに基づいた施策・事業の実施状況は適宜確認をしながら進めていきたいと思っている。
- ・こちらの18の項目はどれも重要な項目ではあるが、広範囲に亘るのでメリハリがつきにくいという課題があった。よって第2次計画では、特に文化芸術基本法にある範囲を中心に、現状と課題を洗い出し、それらに対応し重点的に取り組んでいくものを推進施策として設定しようとするのが特徴。それが、第3章現状と課題、そして第4章推進施策となる。
- ・9ページからは第2次策定にあたっての現状と課題について。前回の意見を反映し、新型コロナウイルスの影響について記述項目を増やした。文化施設の利用者数や事業参加者数は著しい減少となっている。また第5次総合計画でもコロナの社会状況等の分析を記載する予定なので、そちらが出来上がり次第、内容を参考にしながら進めたいと思っている。
- ・11ページから13ページはこれまでの計画の進捗状況をまとめたもの。こちらは各項目の関連事業所管課に内容を確認して進捗を簡単にまとめたもの。
- ・14ページは文化芸術において、重要な課題を7つ挙げたものになる。前回課題としていた内容が「課題というより問題点ではないか」という意見をいただいたので、記載内容のレベルを課題にふさわしい形に見直した。5つ挙げていたが、ご意見により7つとした。
- ・主な変更点としては「関心がない」ということは大きな問題であるとの意見を受けて、新たに「2 文化への興味・関心を高めるきっかけづくり」を課題として追加した。
- ・地域文化資源に関して「活用」の視点を大切にしたいという意見をいただいたので、継承に重点を置いた「5 伝統文化・芸能の普及・継承」と、活用に重点をおいた「6 都市の新たな価値創造につながる地域文化資源・地域人材の活用」に分けている。
- ・7に関しても、もともとは若者というワードを入れていたが、様々な世代ごとに施策が必要という意見により、世代を限らず広く社会課題を解決するため文化の力を他分野へ活かすべきところを課題にしている。
- ・17ページから22ページがこの計画の主たる部分になり、それぞれの課題を解決するための推進施策となる。その部分を一覧出来るのが資料6。

(委員より質疑・意見)

- ・アウトプット指標のところ、現在値、目標値とあるが、現在値は直近値で、目標値は令和8年度に計算されるということで、過去も全く数値は取られてないということでもいいのか。
- ・入場者数、来場者数の60万人という指標設定の時に、委員よりどの施設をカウントするのかの指摘があったが、それは骨子案24ページにある市民文化振興のための施設と都市文化振興のための施設を合計した数字か。

(事務局より)

- ・データはここ数年必ず取っており、指標の項目が固まったらお示し出来る。ただ、直近の値を令和2年度にするとかなり低いスタートになり、それをどこに取るかは指標毎に決めた方がいいのではないかと考える。

- ・60万人というのは、市民文化振興のための施設と都市文化振興のための施設の入場、来場者を合計した数字である。

(委員より質疑・意見)

- ・計画の4ページ(2)の二行目の後ろから「芸術を創る側だけでなく芸術を鑑賞する側がその能力を高める必要がある」とのくだりが、言い回しとしてちょっと上からの言葉だなどの印象がある。今だと対話型鑑賞があったり、鑑賞すること自体を色んな意味合いに捉えているのではと気になった。後、2ページの現状と課題で、コロナのことを書き足して「多くの人が文化に触れる機会を失いました」とあり、本当にそう語られがちだが、ここで語る文化というのは、鑑賞出来る文化だけではなく、それぞれの人が自分の生活の中で持っている文化や芸術性というのは、ステイホームの一人の生活の中で一生懸命頑張った方もいるように思う。むしろそれを共有する機会が失われたのではないか。今のところ文言案を考えてみる。
- ・17ページからの推進施策について。達成目標は文化振興課が管理している施設の数、達成の目安として目標値に入るということだが、奈良町にぎわいの家などはここに入っていない。別のところで文化を盛り上げようとする動きも沢山あるので、同じ奈良市の施設なら数に入れてもいいのではないか。
- ・事業件数等の把握の仕方について、行政のものだけでなく、民間のもの含めてカウントするように転換出来るか。

(事務局より)

- ・奈良町にぎわいの家は、市の施設だが観光分野。こちらに関しては基本方針の1から18の項目の中で各課に進捗を聞くことで、ある程度数字を求めていくことは出来るかと思う。民間施設は中々難しい部分があり、どのように取っていくかは検討していかなければいけないと考える。

(委員より質疑・意見)

- ・これは研究課題として残す。民間ベースの文化施設もあるわけで、そういうところでやられている数値をどうすればうまく把握できるか、行政としても知っておかなければならないと思う。把握出来ないというのはちょっと辛い。文化関係で把握できるようにネットワークを作られないか。検討課題とする。
- ・この中に伝統工芸のなら工芸館なども入っていないが、伝統工芸も文化とリンクする部分があると思う。色んな数値を網羅するのは難しいと思うが、民間主催も含めて、傾向というか、印象的なことなど、文化振興課が市内の動きを把握しコメントする場であっても良い。何かコメント的なことだけでもいいので、文化イベントが増えてきたとか、大きなイベントがあったとか、そういったことがメモ書き的にも入れられる仕組みを作ったら良いのではないか。これが限られた施設で取った数字だということを最初の辺りに、対象施設がどこかよく分かるように書いておかなければいけないと思う。
後、細かいことだが、20ページ推進施策4-2、アウトプット指標の現在値と目標値のところ、表記にいきなりツイッターとあるが、これはSNSのことだと思うが、表記の仕方に工夫が必要と思う。
- ・文化施設のカテゴリーを整理しよう。ここで言っている文化施設をちゃんと定義して、それだけでなく、市の持っているその他の文化施設を第2グループ、第3グループとして民間の文化施設といったカテゴリーも入れる。その方が政策的なリソースとして、皆がリアルに理解して話がしやすくなるのではないか。
- ・16ページからの推進施策のところ。振興のための施設というのが24ページにある施設とすれば、施設の持つ限界みたいなものが取っ払われてもっと広がらないか。例えば美術館などは現代アートなどでもっと利用出来る範囲を広げているところが増えていると思うが、今のままでは施設の問題もあり限界が

ある。展示ギャラリーというだけでなくテコ入れをして、新たなパフォーマンスの発信が出来ないか。他の施設でもこれは観光だ何だという前に、枠を取っ払えるところはないかということが大事だと思う。

もう一つはコロナの中で出来ないから補完的な役割で SNS 発信などがあったのが、むしろそれが主役になりつつある。大学でもリモートでやっていたが、これは残ると思う。それなりに価値が認められ市民権を得るということがある。そういったところを見越して、施設に新たなキャパシティというか、エンターテインメントの施策というのがいるのではないか。ずっと同じような場所で、ともかく人が沢山入ったらよいというものでは、中々新たな取組みは出来ないのではないか。例えば 18 ページのところに無料開放日数と入場者数とあるが、数の問題はもちろんあり一定の意味があるが、それ以外の部分で価値ある施設と認められる方法はあると思う。それが見えてきた気もする。その辺りを何らかの方法で盛り込めないか。コロナというのは一過性の災害みたいなものだから、そこを言うよりも新たに見えてきた新しい価値や方法を、施設が積極的に取り入れて発信出来る体制が出来ないかを考えていくべきではないか。博物館などは、閉館してそれで何もなくていいということではなくなってきている。むしろそこで何かプログラムを作って、積極的に見てもらうことも重要なことではないかと感じた。

- SNS で自らプロデュースして発信する事業も評価の対象とせざるを得なくなる。それがこのままでは評価の対象とならないと。そこについては検討の余地がある。
- 18 ページ推進施策 2-1、美術館施設等の無料開放日数というのはいかにも旧来の枠組みの感じがする。美術館の体験型のオンライン講座の取組みもしているとのこと、もっと違う形での、関心のない人向けの鑑賞機会とか、活動機会の提供はやっていると思う。むしろそういうものを入れた方がいいのではないか。無料開放日数という、そもそも美術館が閉まっている時には意味のない数字になる。逆に閉館時だからこそ、新たな文化鑑賞機会としてやっていること、ただ計画に現在進行形のものをどう盛り込むかとの難しさは同然あるが、新しい指標を盛り込んでいくことを、時間があれば検討していくべきではないか。

もう一点は、これら全ての施策を網羅化した表、指標のアウトプットのところのほとんどに参加者数が入っているが、これらを合計した結果、総合計画に書いている施設の利用者数になり、それを総合計画の中で一つの指標にしているという合理的な説明があると思う。総合計画は計画としては上位に来るので、そこでこの利用者数の数字が独り歩きしないよう、なぜこの利用者数を指標として置いているのかとの説明がどこかに、総合計画に書けないのであれば文化振興計画に、あった方がいいのではないか。

(書くのは) 最後かなと思うが、例えば 24 ページの一番最後の使命を 2 つ挙げたところに、これらの使命を実現する一つの指標として、より分かりやすい指標を提示する検討をした結果、やはり施設の利用者数を一つの目標とすることにした、などとあった方がいいのではないか。更に言うとその中身を変えていくのが、この文化振興計画の非常に重要なミッションだと思う。単なる数字を挙げるだけでなく、新しく来る人がどれだけ増えたか、子どもの数は減っているが利用者は上がったかなど、より質的な利用者の向上をはかるということをどこかに謳っているが、それを細かく見ることは出来ない、総合計画上はザクツとした指標にしている、などの説明があると、先ほどの総合計画との繋がりも非常に分かりやすくなる。最初に総合計画の話があったので、どこかにそのように書いた方がいいのではないかと思った。

それともう一点、細かい要望なのだが。平成、令和という年号表記が続くが、後から見た時にいつだったかとなる。西暦との併記を原則にした方が後々分かりやすいと全体を通して見て思った。

・各アウトプット指標が明確で、これからの運用を具体的に進めやすいと見ていたが、17 ページからの指標の中で一つだけ。20 ページの 4-2、SNS や動画配信サービスを活用していくところ、他の部分のアウトプット指標は事業に基づき参加者数やこういう事業をやったなどだが、この 4-2 だけが、文化振興課の SNS 担当者が一人頑張る指標になっているのではないかと。文化情報発信というのは文化振興課の SNS が代替として公式発表するものもあると思うが、理想を言えば、各文化施設や支援している奈良市の文化団体の発信をサポートするような、その発信も文化振興課の方で紹介していくような形が必要じゃないかと思っている。古都祝奈良のインスタグラムやツイッターなどは量も質も高く、解りやすいツイートや投稿がされていたと思う。このまま公式発表は頑張ってもらって、奈良市の文化振興の情報発信全体のことをもっと指標に入れてもらえたらいいのではと思う。

・一番のポイント、奈良市の文化振興計画の肝というか、市民文化の振興と都市文化の振興の二つを両輪として文化を振興していくとの基本的な考え方はしっかりされていると高く評価したい。それを前提として、奈良市の総合計画（資料 2 ページ）の施策の方向性で、市民文化と都市文化の振興という言葉が謳われているが、これを 3 ページの基本理念と基本方針のところでも、最初に両輪としてやっていくのだと位置付けた方がいいのではないかと。16 ページの推進施策にある文化政策における両輪との説明を前に持って来て、この二つの両輪が相まって、奈良市の国際文化観光都市に繋がっていく一助となると、或いは世界の発展にも繋がっていくと、そういうロジカルな説明を最初に持って来た方がよろしいのではないかと思う。

10 ページの最後「新旧が常に出会う場である奈良の新たな価値の創造へとつなげていきます」との言葉をもう少し具体的に、例えば「新旧の文化が常に出会い、新たな価値の創造へとつながっていく基本スタイルをベースに、国際文化観光都市奈良の発展を目指していく」などと記入した方がいいのではないかと。他、11 ページから 13 ページの（2）これまでの計画の進捗状況のところ、項目について事業展開が必要です、必要ありますなど、表記を必ずしも一律にすることはないが、きちっと評価していった方がいいのではないかと思う。15 ページの 6 番、7 番のところ、6 番の「都市格を上げるための…」の都市格について、もう少し意味合いをはっきりさせた方がいいのではないかと。7 番目の「社会課題解決」とは社会課題とは何の課題なのか、教育、福祉、まちづくり、国際交流といったことをさしているのか、そのところをはっきりと結びつけた方がいいのではないかと。16 ページの市民文化の振興と都市文化の振興の図もよく整理されているが、ここにもう少し横のダイナミズムを、この二つを通じて文化の振興、国際文化観光都市奈良の発展、世界の発展というものも図で示すことを出来ればいいのではないかと思う。

・まとめる努力をしているのが解ってとても好感を持った。特に推進施策指標一覧のところと、骨子案 23 ページの市民文化振興のための政策と、都市文化振興のための政策をカテゴリー分けして重なる部分、市民のもの、都市のものと分けているところはかなり考えられたのではないかと思う。その上で、一覧表を見た時に推進策とアウトプットがあるが、備考欄のところ、今行っている事業や、やることが見えているものが書かれているのではないかと思う。空欄のところ結構あるが、恐らくここを埋めていき、ここに具体的なアクションをどう起こすかを考えるのが、実施していく中では重要かと思う。

もう一つは、アウトプット指標。ほとんどが件数と来場者数となっているが、数字を決めてまともにやっていくとかなり大きな負担になるのではないかと。頑張っていたきたいが、ひたすら事業件数が増えて、現場が疲弊していくということになりかねないとの懸念も持つ。人数を増やすという数字そのものを、何を単位とするのかを考えた方がいいのではとも思う。

例えば施策 1-2 の補助金の採択件数、事業参加者数、とあるが採択件数を増やすためには予算を増やさなければならないので、これは無限に増えるわけではない。採択件数も一つの指標ではあるが、例えばそこに実験的なものや先駆的な事業が入ると、ただ人数を増やすことばかりが良いものとは限らない。これを目標にしてしまうと、お客さんが沢山入る事業を採択していく結果のために、採点なり審査が左右されることにもなりかねない。

もう一つは例えば関心がない人に向けての指標。これは単純に来場者数ではなく、各施設の中でアンケートを丁寧にとったり、どうにかして来場者数の質と中身を問うような抽出の仕方にしていかないと、いつも有料で来ている人が無料で来てしまっただけなどとなる。この辺りのカウントの質を考えなければいけないと思う。来場者数、参加者数、事業件数だけではない指標を作れないかとも考えている。例えば市民全体に向けての文化に対する意識調査。関心のない人が多いという根拠を、初年度の時に何らかの形で調査し、5年後に結果が出たところでこの数字が上がっているのかなど、奈良市民の意識調査を、丁寧に的確な評価の水準や指標を立て、行い、検討していくべきではないかと思う。

奈良市の中の他部署、観光とか産業などとの連携と思うが、例えば奈良県や他の自治体との連携はできないのか。特にアートマネジメント事業は、奈良市の方ではこれからとのことだが、奈良県の方では県立大学の中で CHISOU というプロジェクトで非常にいいプログラムが動いている。そこと連携して、実施場所が奈良市の会館で、何かプログラムと連携するなど、何もかも奈良市だけでやっていくのではなく、良いことをしているところがすぐ側にあるのなら相乗りさせてもらうなど、お互い協力し合えるところはし合う。民間もそうだが、これから人口が少なくなっていくことを大前提に、お互いに持ちつ持たれつの関係が出来るといいのではないかと思う。以上指標の作り方と連携について。

- 全体的に感じたのは、奈良の文化や芸術や音楽の鑑賞とか、受ける側のことが主になっていて、もっと自分達が主役になり前に出るような方法はないのかと、体験を増やす方法はないのかと思った。文化に関心が薄いとか、関心のある人が少ないとの言葉が出て来るが、実際にそうではなくて、子ども達も含めて体験をさせることによって、そこから気付きが出て来るのかもしれないとも思う。美術、音楽、絵画だけではなくて、伝統工芸という言葉もあったが、例えば奈良なら一刀彫、赤膚焼き、うちわなど色んな伝統工芸があるが、そういうものが実際に体験出来るような情報の発信をもう少しお願い出来れば。そのためには奈良県が持っている情報や民間の活用出来るように思う。

補助金にしる、奈良市の後援にしる、もう少し文化を提供する側が受け入れやすいような仕組みづくりは出来ないのかと少し思った。

もう一つ、資料を見て、文化振興補助金の中のなら国際映画祭、令和 2 年のところでは都市文化の推進支援事業の中の国際発信型だが、令和 3 年のところではプレイベントだからか広域参加型の方に入っている。今は二つだけだから分かるが、将来的に見落とししないかなとの心配を少しした。

- 大筋はこれでいいと思うが、各委員から出た評価指標に関するポイントは、とても重要なことが沢山ある。一つは母数の選択の仕方を科学的に明確化しなくてはならないということ。

もう一つは民間施設および民間事業に関するカウントの仕方を視野に入れておかなければならない。民間ベースでやっている NPO 事業だって意味がある。それが頑張れば頑張るほど行政としては弱いところに投資しやすい。

- アウトプットとして出て来るものの総数の出方自体が目的になった時にはとんでもない失敗を起こす。それは人数重視のやり方に転落してしまう。社会的に強い立場の人間の数字しか出てこないということ。

- ・関心が薄い人達に関心を持って貰うという問題意識があるが、関心が薄いというのは変えた方がいいと思う。これは関心が薄いのではない。関心が持てない、機会の貧困ということ。いわゆる社会的機会費用という経済学の概念があるが、豊かでないものは機会を、つまりチャンスにも恵まれなくなる。そこから高じてきて社会関係が貧困になる。社会関係が貧困ということはお付き合いが少なくなり、助けてくれる人がいなくなる、悩みごとの相談相手がいなくなる。それが最終的に高じるといわゆる「孤独」ということになる。こちらを意識して、関心がないという言い方は止めた方がいいと思う。
- ・時間がない、忙しいという人。文化行政をやる時の市民実態調査などで、なぜ行かないのかと訊くと、お金がないからと言えば正直だが、時間がないとのところに皆圧倒的に丸をする。時間がないというのは時間的貧困という概念。経済的貧困、時間的貧困、健康的貧困、社会的貧困の4つの貧困概念を今回はこの基本計画に意識して欲しい。その貧困をいかにして克服するか、どうすればその貧困を克服する方向で施設が人々をいざなったか、招き寄せたか、利用させるように誘導できたかということが大事。それをやらないままにただ単に件数ばかり、アウトプットばかり稼ごうとすると、代理店に任せたらいいとならないか、それを委員は心配している。そんな文化ホールならいらない、公費で経営するべきものではない、と思う。それぐらいの危機感を持った方がいいと思う。アウトプットにはそういう危険性がある。それを克服するためには優れたアウトカム指標があればいいが、アウトカム指標を総合計画のグロスボリュームで出すわけにはいかないの、プロセスはこうだと押さえた上でのグロスボリュームにして欲しいと言っている。そここのところを忘れないで欲しい。
- ・基本計画は細やかな計画なので対象者別、施設別、事業別で全部データが出るように計画行政を進めて欲しい。いよいよ第2次では、絵に描いた餅、啓発的計画は終わり、計画行政の物差しとなる。よって審議会は勤務評定機関である。条例および計画に基づいた事業がちゃんと成されているかそれについて評価を下す。よって年間最低3回は開かないと役割を果たせないということ覚えておいて欲しい。当初は初めからそうだったと思うが、体制も整いきれず、具体的な事業の把握も出来ていないという数年間があったのでここまで時間がかかった。
- ・職員研修をちゃんとして欲しい。関係する市の公共文化施設の職員さんは、奈良市文化振興計画というのは何が書いてあるのかを理解してもらって研修が必要だと思う。
- ・指定管理制度の導入に当たっては、奈良市文化振興条例および文化振興計画に沿った目的を明示して、それに沿った事業計画を立ててくださいとのことを一つ入れて欲しい。まだ、赤字は出すな、お客さんは沢山来てもらえ、とのポピュリズムから脱却できていないのではないかと。100年会館ならなら100年会館、写真美術館なら写真美術館の、いわば現場の人達の危機感と努力で何とかしている状態で、計画的支援がされていないのではないかと不安がある。計画によるバックアップをしてあげないと、野ざらしになり現地判断となる。
- ・アートマネジメントという言葉があるが、マネジメントという言葉だけではなくて、コーディネーターという言葉も入れて欲しい。アートマネージャーというと専門職のようなイメージだが、専門職と捉えていると、理想論ばかりで現場に太刀打ち出来ないアートマネージャーが増えている。ドラッカーの言ったマネジメントとは難しいことではなく、異質なものを上手くかみ合わせて前に進めること。野性味のあるマネージャーが出てきて欲しい。アートマネジメント教育を受けてきた人が欲しい訳じゃない。現場に強いコーディネーターを養成すべきだと思っている。市民にも強い、施設にも強い、アートにも素養がある。そういう人たちを増やして欲しい。

(会長より)

大変立体的かつ奥深い議論が出来て助かった。これをもとにもう一度修正案を作っていく作業に入る。
事務局には大変苦勞をかけるがよろしく願います。本日の議題は以上。

(事務局より)

- ・お願いが一件ある。委員の皆さまの任期は令和3年6月19日までとなっている。本来ならば任期中に第2次計画の策定完了のはずが、コロナの影響で期間延長となり現在策定作業中。奈良市としては、ご議論いただいた内容の継続であるので、皆さま方に次の2年間も委員をお願い出来ればと思っている。検討いただき後日意向を書面にて確認、回答をいただきたい。

以上、議題終了